

明 渡 し  
 静 聴  
 靈 交  
 献 身  
 奉 仕

日本クリスチャン・アシュラム連盟

# 祈 禱 生 活

Japan United Christian Ashrams.

発行所  
 東京都中野区  
 江原町3-19-12  
 江古田教会気付

編集人  
 海老沢 宣 道

発行人  
 高瀬 恒 徳

定価1部 30円

## 「アシュラムに接して」

山 根 可 弐

### (一) 明渡しと服従

「彼のようになりなさい」  
 たびたび聞かされ、教えられてきた言葉である。しかし、多くの者が、良いことは知りながら、かえって困難を思い不可能を感じて去って行くものさえある。だが、アシュラムに接して私の受けたことは、「あなたも行って同じようにしなさい」(ルカ一〇ノ三七)であった。

「なりなさい」よりも「しなさい」の方がむつかしく考えられる人もある。特に「同じように」とは誰のことであろうか。キリストご自身である。そうだとすれば、いよいよ手も足も出せない。しかし、主イエスは無理なことは言わない。

そこで、「キリストへの明渡し」アシュラムの第一原則が必要になってくる。明渡しで主人が変わると新しい主人キリストは、ご自分の意の如くせられる。明渡した者は何もう権利はない。オール・サ

レンダーとはこの事実である。

ところが、この主人はいうまでもなく、愛に満ちた寛容と慈悲のお方である。つい誰にも言えなかった秘密も重荷も打明けてしまふ。彼はそれが聞きたかったのである。知ってはおられたが、その人の心を打明けてほしかったのである。そして、この主人との霊の語り合いが始まる。本当の静聴とはこれであったかとなっとくし、喜んで服従する。

ついでに、借金(罪)の帳簿も何も皆もってくる。新しい主人はねんごろに、その処置まで教え、願えば(祈れば)要するものまで提供せられる。彼は乏しいことがないと聞いていたが、その事実を知る。

行きつまっている人々に、アシュラムを紹介し度い。第一の原則からでもこれだけの恵みが湧いてくる。こういうものだというよりも、こういうことだと事実を味う。

### (二) 静聴と立証

友人に招かれて十五人ほど楯円形になって集まる家庭集会に出席した。説教者も指導者もない。司会者はマタイ伝五ノ二七ノ四八を読んで、生ける神の前にあって一同に静聴を奨めた。私は初めてのことで教会と様子が異り、少しめんくらった。しかし、目に見えないお方がひとり、声なき声で私に問いかけられる。ごまかしはきかない、思わず「主よ御覧の通りです」と、妻も知らないことまで、神と人々の前に打明けた、否、告白した。

帰途バスの中で足を踏まれても、有難うという程になっている私に、自分ながら驚いた。翌朝庭の雀の声まで変わったような気がする。これがライフ・チェンジということかな? と、喜んだ。しかし、その日、出勤して見ると対人関係で不愉快な気持ちになったので、もう一度やり直し、その晩十二時まで祈って休む。翌朝四時過ぎに初めての体験、主の聖臨に目をさまされ、二月の寒い朝であったが、ねまきを着替えるひまもなく、そのまま「主よ語り給え、僕聞く」と端座した。

「立ちて行け、再び罪を犯すな」  
 ア主だ、救われた、しか

し、「行け」再び、「私に確  
信がない？。その時。」

「われ必ず汝とともに在るべし  
と愛そのものの御声が、私の霊と  
心を打ちくだき、全く別の世界に  
入れられた。後にウエスレーもこ  
の体験で回心したときかされた。  
このことがあって以来、私の生涯  
は肉から霊の生活へと全く一変さ  
せられた。

主は誰にでも同じ方法の回心を  
要求せられないであろう。しかし、  
主御自身に変わりはない。「僕聞く。  
主よ語り給え」(第一サムエル三  
ノ九) (マタイ四ノ四)。静聴は  
健全な霊的生活の第一歩であるこ  
とを知る。

もちろん日常生活に主の霊導と  
訓練は伴うのであるが、聖書がそ  
の保証をし、いつも座右を占めて  
いることを忘れると危険がともな  
う。しかし、静聴を怠るときに聖  
徒の成長はなくなると言っても過  
言ではない。静聴はしなければな  
らないというよりも、呼吸のよう  
にせざるに居られないのが、神に生  
きて信じて居る信徒の立証であり、絶え  
ず新しい立証が生じてくる。主と  
の交わり静聴があってこそ、人と  
の真実な霊的交わりができ(コイ

ノニア)、主の教会も成長するで  
あろう。

この証しはアシニラムに接する  
数年も以前の体験であるが、正統  
な信仰によって歩む人は誰でも、  
アシニラムの第二原則は必ず通る

### 静 聴

## 「何をしているのか」

池 本 金 三 郎

べき道であり、アシニラムは更に  
それを裏付けする。信仰生活は静  
聴と立証の継続であると共に、中  
途半端で止っては主御自身の目的  
には到らない。

列王紀上十九章を拝読すると、  
主の予言者エリヤはバアルの予言  
者四五〇人を相手に、天よりの火  
を呼び下し、主こそ神なることを  
示す祈りの勝利を占めました。バ  
アルを信じる王妃イゼベルが彼の  
命をねらっていることを知り荒野  
に逃れて、れだまの木の所で、「  
私の命を取って頂きたい」と主  
に祈りました。所が主は彼に食事  
を与えて、神の山ホレブに導きま  
した。彼がその洞穴に宿っている  
と、「エリヤよ、あなたはここで何  
をしているのか」という御声が聞  
えました。彼は主に仕える予言者  
が皆殺され自分一人になったこと、  
人々はその私の命をもねらってい  
ることを答えました。すると主は  
「山の上で主の前に立て」と言われ、  
やがて強風が吹き、地震が起り、

火がもえ上ったが、それらの中に  
主はおられませんでした。そして  
火の後に静かな細い声が聞えまし  
た。前と同じように「エリヤよ。  
ここで何をしているのか」という  
御声でした。彼もまた同じく前の  
ように自分一人だけ残っているこ  
とを答えますと、神は彼に新しく  
油注いで立てるべき王たちとエリ  
シャを予言者とすべきことを示さ  
れました。そしてバアルを拝まぬ  
七千人をイスラエル民族の中に残  
すとの力強いお告げを受けました。  
今日宗教心が低下し、キリスト  
信徒の信仰も冷えている時、エリ  
ヤの如く唯一人になっても、人々  
から命をねらわれても、主に対す  
る熱心を変えない時、神は必ず共  
に在して養って下さるだけでなく、  
七千人の同志を備えて下さるにち

がいありません。  
あなたは何をしているのか、と  
の主の御声が今も聞えます。私は  
ベタニヤ村のマリヤの如く、何も  
せずに主の御声に聞きほれて座っ  
たまま、信者の方々にマルタの役  
をさせて得意然としていたことを  
深く反省します。

もう一つ「何をしているのか」  
との御声に従って示されたことは、  
ヨハネ伝十五章の御言でした。神  
は農夫でぶどうの木を常に見てお  
られ、実を結ばない枝は取除き、  
実を結ぶものは、もっと豊かに結  
ばせるために手入れしてきれいに  
なさるといふことです。

私の親戚で山梨にぶどう園を持  
っている人があり、過日そこへ行  
きましたが、立派な実を得るため  
に、その手入れをする仕事がい  
かに大変なことかを知りました。  
世話をせざるにほったらかしに  
おいては小さな堅い実しか得られ  
ません。信仰のよい実を結ぶ者  
となるために、アシニラムにおい  
て十分に手入れをして頂き、整えら  
れた信者になりたいと願うもので  
あります。



### アシユラムの五大原則

- (一) キリストへの明渡し
- (二) 御言への静聴と立証
- (三) 聖霊の啓導と充満
- (四) 教会への奉仕と伝道
- (五) 神の国の体験と献身

### 第二回全国理事会報告

予告通り去九月十八日より一泊二日間、伊豆あじろのロッジなるけにて開く。出席者は高瀬、中路海老沢、山根、池本、大石、宇都宮、鈴木、谷本、横山の各理事、原田氏代理の内村氏、成毛氏陪席の十二名。

(一) 開会礼拝(午後一時)司会池本金三郎、さんびか五二七、祈り海老沢、開会の言で高瀬理事長はマタイ二三章により鋭い自己反省をなされ、開心の模範を示されて一同深く感動す。次で司会者は列王上一九章により、別掲の如きメッセージを述べられ教えられる所、大なるものあり。さんびか四九五、山根氏の祈で結ぶ。

(二) 霊交の時(午後二時半)司会山根可式、ルカ十章のよきサマリヤ人の例話によって迫られる主の御声を聴く。次で中路、横山、

宇都宮、池本、海老沢、高瀬の六名が今日までアシユラムで受けた恵みと幻を語る。

(三) 聖書の時(夕六時半)司会谷本清、マルコ十三章十三により主が弟子たちを選ばれた目的内容につき深い瞑想に導かれる。

(四) 世界大会報告(午後八時)中路嶋雄氏、『聖都YMに開かれた大会には各国から三二五名出席、北米、カナダ、フィンランド、スエーデン、英国、日本、印度、オランダ、南米などからであった。スタンレーさんの開会説教は息切れの声で一時間に及び感動したと同時に聖者の風格に打たれた。車いすのまま口感もゆがみ、見ていると痛ましい感じがした。

聖都の五日間のあと北部へ向いガリラヤ湖畔で最後の聖餐式を守ったが、その司会と奨励を担当させられる光栄に浴した。アシユラム国際委員に高瀬、鈴木両氏を推薦しておいた。日本アシユラムへの期待は極めて大きい。第二回は七五年にインドで開くことになる。』と報告。

鈴木留蔵氏『大会中、各国の有力な指導者に接することができて感謝、聖書の時は英のグリーン、印度のカマルソン、教会革新の時

は米のヒスカミラ、フィンランドのエワルツ、英のパーリンジ、カナダのハンター、立証の時はメリーウエプスター、フィンのパッカス、スエーデンのニールソン、米のカールソンによって行われた。』

(五) 静聴の時(第二日午前六時半)司会、高瀬、聖書第一コリ九章一九一―二三、第一ヨハネ一章一―四、一同恵みを分かち合う。

(六) ファミリ・アワー(九時)司会、横山義孝、各地区の報告、四国アシユラム規約承認、海外のリーダー招聘の件、北米連盟へ通信費他のため五万円送金のこと、スタンレーの近著の翻訳を海老沢に委嘱、本連盟は地区との連絡が主目的で、地区アシユラムは地区委員の主催による。連盟は指令せず推進を助言するだけであること、他の超教派運動と競合せず、教会の悩みの欠けを補い仕えるものであることを確認。明一九七三年度予算七八万円を決定。地区分担金(平均額五万円)と全国特志献金に期待する。日本アシユラム大会は別途会計とすることなど話合われた。

(七) 充満の時、(午前十一時)司会、宇都宮充、サレンターの徹底とコイノニアの充満につき勧め

られ一同の熱こもる祈りを以て閉会した。

### 各地報告

#### 第二回道南アシユラム

十月八日から二泊三日

連盟から高瀬恒徳先生を送られ、靈に満され暖かい落着いた雰囲気集いで好評、地元の人々が祈りを以て参加高瀬師の卒直、真実なご人格、主の御導きにより祝福された集いであった。会場は函館ちとせ幼稚園で、教団、聖公会、救世軍、フォースクエア教会、バプテストの信徒五七名参加、二日目の午後の祈の時には感激のため異言を語る婦人もあり、教団の信徒は驚いたが、それも温かく受入れられた。教派間の異和感が超克されたことは一つの進歩であった。

全体として昨秋スタンレー師の来道中に持ったアシユラムよりもよくまとまり深いコイノニアを表現したと思う。全員が証をし祈ったことは始めてである。

今回は昨年同様、白川、植村、増田、岡村の諸師が委員として奉仕されたが、次回からは信徒の委員をあげることに、土日と二日のものを年に二・三回するような方向をとる予定。当分は函館市内の諸教会の交わりを強め、やがて道央、道北にもひろがることを祈

っている。  
連盟負担金はまだ会員が少なく、予算の通り送れないが、席上献金もして多少送ることができたことは感謝である。

### 第十一回関東アシユラム

十月九日から奥多摩で

今年の標語は「見よ、わたしは戸の外に立って叩いている」(黙示三・二〇)として、講師は外部から招かず、東京の小出忍、海老沢宣道の両師に聖書の時間を担当願ひ、横山委員長の開會説教、開心の時(岡田)立証の時(山根)連鎖祈禱(草村)み言の分ち合ひ(大久保)ファミリー(大石)充滿の時(満丸)と二回の分回は全委員が座長となって指導に当った。予めお願いしてあった立証者、安藤信太(救世軍)井本富三郎(ホーリネス)山根恵代(単立池上)三氏の証しにも心打られたが、その他多くの兄弟が開心の時から分団でも分ち合ひの時でも立証をして、充滿の時には全ての人々が今回の恵について発言したことは感謝であった。

参加申込は九〇名近くあったが実際出席者は八〇名であった。しかしスタンレー師の来ない年に開催したうちで最も盛んなアシユラムであった。連盟負担金は一地区平均額の五万円は出すようにしようとして決議している。

### 第七回関西アシユラム

十一月二日—三日、シオンロッジにて百名募集を目標に、中路嶋雄、中島彰両師を講師として後宮師他十数名の委員協力のもとに開く。詳細な実施状況は次号に報告がくる筈。

### 第二回東北アシユラム

一九七三年一月十五—十六日開催の予定で目下、村上委員長を中心に高橋力、吉池、遠藤、諸師が祈のうちに準備中。連盟から高瀬理事長が講師として応援する。

### 第七回四国アシユラム

一九七三年一月二五—二六日、松山済美会館にて大阪の中路師を講師に迎えて開催、目下宇都宮委員長を中心に黒田、河野、中山の諸師委員として祈のうちに準備中。

### 第六回今治アシユラムは今治教会主催で、去る十月九日から二泊三日東予国民休暇村で榎本牧師中心に開かれ、約二百名が恵みの時を持ったことである。

代官山教会一日アシユラムが、十一月二三日の一日、中村武牧師中心となって開かれた由、関東地区内でも各地にこのような催しがなされることは望ましい。

### スタンレーさんの近況

米国アシユラム連盟の報告によれば六月エルサレムの世界大会後、再びインドの病院で静養しながら、同地の聖会を指導されつつあり、一月下旬に米国へ帰られる予定とのこと。

### 連盟理事住所録

御希望がありましたので左に理事の住所と氏名を列記いたします。

- 高瀬 恒徳(理事長) 東京都文京区西片町二一六—二二、西片住宅二〇一
- 中路 嶋雄(副理) 大阪府北区神山町七九、扇町教会
- 海老沢宣道(総務) 東京都中野区江原町三一—一九—二二
- 大石 嗣郎(書記) 同目黒区中央町一—二—二四
- 横山 義孝(同) 川口市青木町四—三六七 西川口教会
- 鈴木 留蔵(財務) 船橋市前原町二—二八二
- 萱沼 孝文(同) 東京都世田谷区上北沢三一—二一五
- 山根 可弐(常任) 同新宿区下落合二—一七三二
- 池本金三郎(同) 三鷹市上連雀二—二〇—二四

- 地区代表理事
- 白川 鄭二 函館市松陰町九—一六
- 村上 東 郡山市清水台二—一六—四

- 原田 定男 名古屋市中区板橋町二—一八
- 谷本 清 広島市上職町九—一三
- 宇都宮 充 松山市三番町三一—一〇
- 山本 繁夫 北九州市門司区大里縁谷

### 地区委員の訂正

○関東アシユラム  
第十一回にて委員を改選、常任として左の十二名を決定した。

- (長) 横山義孝(書記) 帆足誠(会計) 成毛謙次郎、岡田実、草村美、中村武、松田浄、那倉一夫、小島恵一、井本富三郎、萱沼孝文、沢田赴
- 他に十三名の教職信徒、数名の婦人を委嘱協力を願うことにした。

- 中部アシユラム  
尾崎秀雄は、尾城秀雄の誤り
- 関西アシユラム  
福富俊夫は、後宮俊夫の誤り  
以上二氏に対しお詫びして訂正。
- 四国アシユラム  
前号に「松山」とあるは削除。

ジョーンズ述・海老沢訳  
アシユラムとは何か(30円)  
参加者全員必読の文書

地区アシユラムの手引  
地区指導者必読の文書(50円)